

重要な構成要素 そのだもくちょうてん「園田木彫店」

建築：大正期

参道の景観を構成する要素

「園田木彫店」は、縁起物として伝統的なお土産「柴又はじき猿」や「御幣猿^{ごへい}」などの木彫品を扱う木造2階建ての長屋の店舗です。間口3間の小規模町屋であり、隣接する「わかば園」と建築としては一体であることから、「表長屋」タイプに分類されます。建築年代は不詳ですが、研究によって大正期のものと考えられており、外観からもその時期のものであることがうかがえます。

参道側を開け放し、開放的な軒庇下に商品が陳列され、軒庇上に看板が置かれ、対面での販売が行われています。現在は作業場を別に移していますが、かつては店先で彫刻をしていました。参道側の外観は、ファサードが連続した参道において、屋根、庇^{ひさし}などのまちなみの表情を作る要素によって賑わいを演出しています。



「柴又はじき猿」を手にした女の子
(昭和 40 年代撮影・葛飾区郷土と天文の博物館提供)